「若い層が働きやすい環境を整えていきたい」と話す金子さん

コロナ禍をきっかけに５社連携で挑む。旅館のDX化と温泉熱発電

有限会社金子

代表取締役
金子博之

1969年山ノ内町出身。大学卒業後、前橋と新宿でホテルの営業マンとして働いたのちUターン。1996年に社長就任。バリアフリーに配慮した宿泊棟新築や貸切バス事業を行う。好物は納豆。

ヒューマンアグリの農園で収穫したリンゴをホテルの売店で販売。農泊ツアーで首都圏から多くの学生が訪れた

敷地内でもうもうと蒸気をあげる源泉のタンク。豊富な湯を生かしてバイナリー発電の実証実験に乗り出す

敷地内に源泉を３つ有する「ホテル豊生」。豊富な湯力によるかけ流しの天然温泉が魅力だ

地域農家と連携する新事業に挑戦

信州を代表する温泉場、湯田中温泉郷。創業44年を数える「ホテル豊生」は、湯田中駅からほど近い穂波地区に位置します。貸切バス事業も展開する強みを生かし、宿泊付きのバスツアー商品で学生や高齢者を中心に人気を得てきました。

しかし2020年、長いコロナ禍に突入。旅行の激減で宿泊事業、貸切バス事業ともに売上は大きく落ち込みました。終わりの見えない状況に危機感を募らせた代表取締役の金子博之さんは生き残る道を模索。同年、近隣の旅館４館と連携して新法人「株式会社ヒューマンアグリ」を立ち上げます。５館それぞれが信用保証協会の協力で融資を受け、資本金を持ち寄って設立しました。

新法人の事業は、担い手不足が進む地域の農業をサポートすること。

「宿泊をセットにした農業体験ツアーの販売も始め、首都圏の学生さんを中心に好評をいただいています。りんご狩りのような手軽な体験ではなく、あえて草刈りや消毒などリアルな作業を体験してもらうのが売り。畑でバーベキューやテントサウナを楽しんでもらっています。現在提案しているのは、３泊４日の旅に年４回訪れてもらう『農業のサブスク』。リンゴなら冬の剪定、春の花摘み、夏の摘果、そして秋の収穫と、年間を通じて山ノ内に足を運んでほしい」

新法人の立ち上げは、旅館スタッフの雇用の維持にもつながっています。

旅館のDX化で目指す新しいもてなしの形

今後は国の補助金を活用した事業も進行中。湯田中の旅館をDX（デジタルトランスフォーメーション）化して宿泊予約やスタッフの雇用を一元化し、料理はセントラルキッチンで一括調理し提供する計画です。地域全体が一つの大きな宿になるイメージです。予約管理の手間や食材ロスなど旅館業につきものである無駄を省き、顧客の選択肢を増やすことで満足度アップを狙います。

「高価格帯でフルサービスを提供する旅館からリーズナブルでセルフサービス主体の旅館までカテゴリーを分け、お客様のニーズに最もマッチする施設を提案する仕組みを考えています。システム会社と提携して、交通や食事、アクティビティまで手配できる専用アプリも準備中。第一段階として、５年計画で我々５館がサンプルとなって実施し、徐々に湯田中全体へ広げていきたいと思っています」

それぞれ歴史もこだわりもある旅館の境界を崩し、一元化する。大胆な試みの青写真は、2011年の東日本大震災当時から金子さんの中にあったと言います。

「旅館が１軒で戦っていけない時代。自社ののれんにこだわるか、生き残る新しい道を探すか、選択の時だと感じていました。そこにコロナ禍がきて、すべて変えざるを得なくなった。収束したとしても、いつまた予想外の事態が起きるかもしれません。変化に強い企業体を作らねばと、強く感じました」

さらには旅館コンサルタント業務、不動産、貸切バス、旅行と、それぞれの強みを生かした多彩な業務を展開予定です。背景には「地域に若い就労者を根づかせたい」との思いもあります。大規模の企業体を共同で作って一括採用し、旅館業、農業、不動産業などさまざまな部署で雇用を安定させる。さらに部署を横断してローテーションで働く環境を通して、定着率を上げたいと考えています。

「理想は年収700万円程度の雇用を安定して作ること。そうすれば、湯田中に根づく若年層が増えるはず。旅館の後継者不足にも光が差すと思います。旅館は代々継いでいく場合が多いですが、子どもには強制したくないと考える宿主が多い。共同運営の形になれば、道筋を見つけやすくなるでしょう」

温泉熱発電で地域に還元したい

地域と一体になって進めているプロジェクトが、温泉熱の蒸気でタービンを動かすバイナリー発電の実用化です。

「国の事業再構築補助金などで設備投資を行い、売電によって得られる年間約460万円の収入を地域に還元する計画です。地域の65歳以上の方の温泉券の無料化やコミュニティバスの無償化、市街地に出る学生や社会人の定期券補助、コミュニティセンターの街路灯の電気代提供などを考えています。企業が地域の中で生き続けていくためには、利益を独占せず、地域に還元していかなければいけない。当社の敷地には源泉がありますが、たまたまここに湧いているだけのこと。温泉という資源を共有し、地域のために役立てたい」

さらなる目標は、発電を利用して温室で行う施設栽培。例えば冬に出荷するマンゴーなど、季節をずらした栽培で高い収益を狙います。さらに温泉熱と発電で水温を一定に保つ陸上養殖計画も視野に。これらは県や漁業協同組合のバックアップを受けながら進めています。

「とはいえ、一番難しいのは地域の皆さんに理解していただく道のりです。まずは当館にある３つの源泉を使って１年かけて実証実験を行い、地域の皆さんに見てもらおうと考えています」

果敢なチャレンジを支えたのが、信用保証協会の協力で得た融資。コロナ禍でも旅館を維持できる資金を得たおかげで「目の前の資金繰りに焦ることなく、新規事業を長期的な目で考える時間ができました。生かしていただいた、という気持ちです」と金子さん。

多角的な事業展開の根底にあるのは「武器はいくつあってもいい。最後に何か一つ二つ、残ることが大切」という思いです。想像もできない変化も起こる時代を生き残るため、伝統や常識にとらわれない道を切り開いています。

明るいロビー。2016年には障害者と高齢者に対応できる館内バリアフリーの宿泊棟を新築した

「ホテル豊生」は全39室、210名収容可能。コロナ禍でニーズが激減した宴会場をあえて残し続けたことで、新たな商機を得ている

有限会社金子
創業｜昭和53年
事業内容｜ホテル・旅館事業。観光サービス事業
〒381-0402 長野県下高井郡山ノ内町湯田中温泉
Tel 0269-33-3281　HP http://www.yudanaka-housei.com/